

名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 公的医療機関等2025プラン

令和4年12月 策定

【東部医療センターの基本情報】

医療機関名：名古屋市立大学医学部附属東部医療センター

開設主体：公立大学法人名古屋市立大学

所在地：愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号

許可病床数：520床

(病床の種別)

一般病床：510床 感染症病床：10床

(病床機能別)

高度急性期：274床 急性期：236床

稼働病床数：同上

診療科目：内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、内分泌・糖尿病内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科口腔外科

職員数（令和4年4月1日現在）：851人

- ・ 医師 : 158人※
- ・ 歯科医師 : 2人※
- ・ 薬剤師 : 29人
- ・ 診療放射線技師 : 33人
- ・ 臨床検査技師 : 27人
- ・ 理学療法士 : 14人
- ・ 作業療法士 : 6人
- ・ 言語聴覚士 : 3人
- ・ 臨床工学技士 : 19人
- ・ 管理栄養士 : 5人
- ・ 看護職員 : 509人
- ・ 事務職員 : 38人
- ・ その他 : 8人

※医師・歯科医師はシニアレジデント及び臨床研修医を含む。

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(人口の見通し)

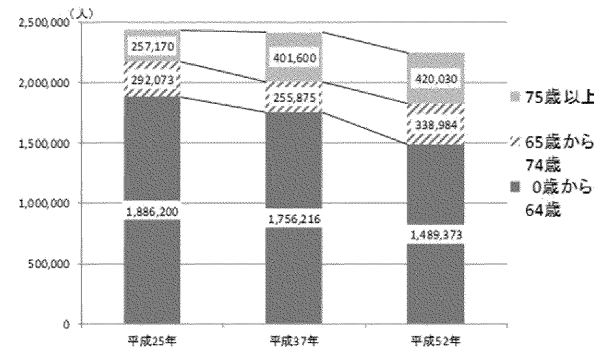
- 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。
- 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

<人口の推移>

※ () は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)

<名古屋・尾張中部構想区域>



(医療資源等の状況)

- 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも7か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- DPC調査結果 (DPC調査参加施設：24病院) によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病 (急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害) 及び高齢者の発生頻度が高い疾患 (成人肺炎・大腿骨骨折) の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病 (急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷) の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、圏域内 (18病院) において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料 (ICU)・新生児特定集中治療室管理料 (NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料 (MFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料 (HCU)・新生児治療回復室入院医療管理料 (GCU) の届出がされています。
- 平成25年度 (2013年度) NDBデータに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にありますが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料 (SCU) については尾張東部医療圏へ患者の流出があります。尾張中部医療圏の自域依存率は0%であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

<医療資源等の状況>

区分	愛知県①			名古屋・尾張中部②			②/①		
	人口10万対	人口10万対	人口10万対	人口10万対	人口10万対	人口10万対	人口10万対	人口10万対	人口10万対
病院数	325	137	—	4.4	5.6	127.8%	14,712	6,538	—
診療所数	5,259	2,166	—	5.5	5.3	97.1%	197.9	268.5	135.7%
有床診療所	408	130	—	49.9	62.3	124.8%	20.3	23.7	116.9%
歯科診療所数	3,707	1,517	—	49.9	62.3	124.8%	5,410	2,270	—
病院病床数	67,579	25,978	—	908.9	1,066.7	117.4%	36,145	14,310	—
一般病床数	40,437	16,748	—	543.9	687.7	126.4%	486.1	587.6	120.9%
療養病床数	13,806	4,493	—	185.7	184.5	99.3%	49.9	51.9	104.1%
精神病床数	13,010	4,604	—	175.0	189.0	108.0%	4	2	—
有床診療所病床数	4,801	1,573	—	64.6	64.6	100.0%	—	—	—
面積 (km ²)	5,169.83	368.34	—	—	—	—	—	—	—

<入院患者の受療動向>

【名古屋医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあります。また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

<平成25年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	受療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	—	100.0%
急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239	
	88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%	
回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325	
	88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%	
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743	
	79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%	

＜平成25年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向＞
(単位：上段 人／日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地														合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
		79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%
慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
	84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

(地域医療構想における機能別必要病床数)

- 愛知県医療構想において、名古屋・尾張中部構想区域の平成27年度の報告病床数と平成37年度の必要病床数を比較すると、平成37年度必要数は平成27年度病床数より全体で217床減少し、病床別では、回復期が5,520床 (+277.5%) 増加する見込みです。一方で、高度急性期は3,495床 (-54.8%)、急性期は856床 (-9.6%)、慢性期は885床 (-19.8%) 減少する見込みとなっています。
- 名古屋医療圏の主要医療機関の病床機能報告状況
名古屋医療圏の主要医療機関の病床機能報告状況は、将来過剰となる高度急性期急性期機能の病床数増加を報告している病院が複数見られます。
- 名古屋医療圏の将来推計患者数の予測(入院患者)
名古屋医療圏の将来推計患者数の予測(入院患者)は、妊娠・周産期系疾患を除き、いずれの疾患も増加が見込まれます。循環器系、精神系、新生物は、特に入院患者数が増えると見込まれます。

② 構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも7か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

③ 自施設の現状

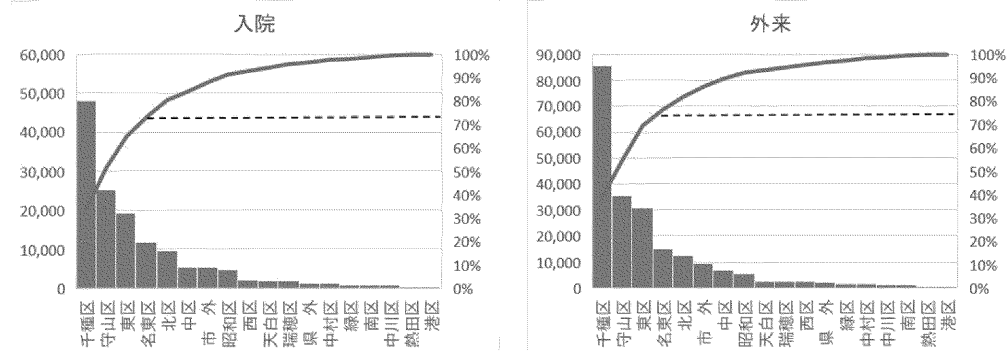
- 理念
安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します。
- 基本方針
 - ・ 心臓血管・脳血管疾患などに対する高度・専門医療の充実に努めます。
 - ・ 救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします。
 - ・ 第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします。
 - ・ 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します。
 - ・ 医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います。
- 診療実績(令和3年度実績)
 - ・ 入院延患者数：142,226人
 - ・ 外来延患者数：219,002人
 - ・ 新入院患者数：11,490人
 - ・ 救急車受入件数：6,720件
 - ・ 平均在院日数：11.4日
 - ・ 手術件数：4,788件
 - ・ 病床稼働率：74.9%
 - ・ 地域医療機関からの紹介患者数：15,072人
- 自施設の特徴
 - (1) 行政指定等一覧
 - ・ 地域医療支援病院
 - ・ 救命救急センター
 - ・ 地域中核災害拠点病院
 - ・ 第二種感染症指定医療機関
 - ・ 臨床研修医養成指定医療機関
 - ・ 肝疾患専門医療機関
 - ・ 日本医療機能評価機構認定病院(「機能種別 一般病院2」3rdG:Ver.2.0)
 - (2) 学会等指定一覧
 - ・ 日本内科学会認定教育施設
 - ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
 - ・ 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
 - ・ 日本高血圧学会専門医認定施設
 - ・ 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
 - ・ 日本呼吸器学会認定施設
 - ・ 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
 - ・ 日本消化器病学会認定医制度認定施設
 - ・ 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
 - ・ 日本神経学会認定教育施設
 - ・ 日本脳卒中学会認定研修教育病院
 - ・ 日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携研修施設
 - ・ 日本感染症学会連携研修施設
 - ・ 日本内分泌学会認定教育施設

- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本糖尿病学会教育関連施設
- ・日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
- ・日本病態栄養学会認定栄養管理・NST稼働施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本小児科学会専門医研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練指定施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）
- ・日本乳癌学会認定関連施設
- ・呼吸器外科専門医合同委員会認定修練機関（関連施設）
- ・腹部ステントグラフト実施施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本リウマチ学会認定教育施設
- ・日本手外科学会研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設
- ・日本眼科学会専門医研修施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医関連研修施設
- ・日本医学放射線科学会専門医修練機関（画像診断・IVR、核医学）
- ・日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
- ・日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本病理学会研修認定施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本ペインクリニック学会指定研修施設
- ・日本呼吸療法学会専門医研修施設

(3) 地域別患者数

東部医療センターの地域別患者数は千種区、守山区、東区及び名東区で入院、外来ともに70%を超えています。

■令和3年度地域別患者数

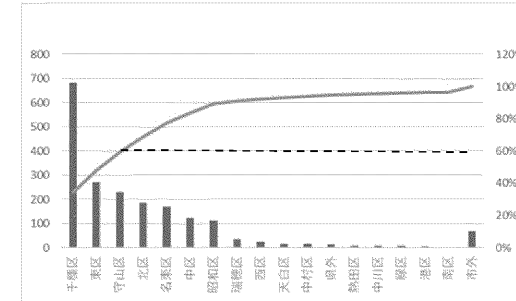


※表中の折れ線のグラフは累計 (%)

(4) 地域別紹介患者数

東部医療センターの地域別紹介患者数は千種区、東区及び守山区が紹介数全体の60%を占めています。

■令和3年度地域別紹介患者数



※表中の折れ線のグラフは累計 (%)

(5) 特徴とする医療

○センター・専門外来

診療科の枠を越えて、専門チームによる、疾患や診療機能を集約した一貫した診療を行うことで、より高度で安全な医療提供を実現しています。

また、専門外来を設けることにより、地域の患者や医療機関にとって診療内容がわかりやすく、より密な地域連携がとれるよう取り組んでいます。

[センター]

- ・救命救急センター
- ・感染症センター
- ・高次ウイルス感染症センター
- ・心臓血管センター
- ・脳血管センター
- ・内視鏡センター
- ・集中治療センター
- ・先進がん治療センター
- ・リウマチ・骨粗鬆症センター
- ・摂食嚥下センター
- ・血液浄化療法センター

[専門外来]

- ・禁煙外来
- ・ペースメーカー外来
- ・睡眠時無呼吸外来
- ・認知症外来
- ・リウマチ膠原病外来
- ・小児泌尿器外来
- ・小児心臓外来
- ・くちのかわき（ドライマウス）外来
- ・生活習慣病検診・特定健診
- ・母親教室
- ・外来看護相談
- ・フットケア外来

○救急医療

2014年に救急科を開設した東部医療センターでは、心臓血管センター、脳血管センターが中心となって救急を応需しています。2015年に救急・外来棟を開棟し、2018年には救命救急センターの指定を受け、一般の救急医療機関では対応できない重篤な患者に対して365日24時間体制で迅速かつ高度な医療を提供しています。

■救急患者受入れ数

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
救急車による搬入患者数	7,764人	7,626人	7,673人	7,007人	6,720人
Walk inによる救急外来患者数	7,581人	7,191人	6,892人	4,716人	4,955人
合 計	15,345人	14,817人	14,565人	11,723人	11,675人

○感染症医療

二類感染症を受け持つ第二種感染症指定医療機関の役割を担うほか、エイズ拠点病院および熱帯病治療薬研究班の薬剤使用機関です。

2020年に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者を名古屋市内で初めて受け入れ、2021年3月には新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染症患者専用病床を新たに22床整備するなど第二種感染症指定医療機関として、現在も感染症の治療に全力で取り組んでいます。

■新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ状況

令和4年度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	31	35	19	80	138	57	17						377
うち、重症者			1	6	10	3	1						21
延べ人数	329	240	189	486	1,141	604	191						3,180

令和3年度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	61	91	41	45	103	59	5	3	0	50	89	48	595
うち、重症者	2	13	4	1	6	8					7	4	45
延べ人数	536	1,046	683	372	876	901	84	31	0	256	924	691	6,400

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	26	2	9	29	45	29	23	37	53	48	24	14	339
うち、重症者	1			1	1		1	6	5	6	5	1	27
延べ人数	319	86	100	199	575	315	190	381	591	677	404	227	4,064

令和元年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数											11	16	27
うち、重症者											3	1	4
延べ人数											93	284	377

※実人数について、陽性患者の入院期間の初日(疑い期間含む)に計上。

※延べ人数について、陽性患者について疑い期間(陰性患者は除く)および治療完了後の入院(転棟後)は含まずに計上

○心臓血管・脳血管疾患に対する高度・専門医療

心臓血管センターでは、心筋梗塞や頻脈性不整脈などに対する内科的治療と、虚血性心疾患や大動脈疾患などに対する外科的治療を循環器内科と心臓血管外科が協働して実施し、脳血管センターでは、脳神経内科と脳神経外科とが協働して、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血といった急性期の脳卒中や、未破裂脳動脈瘤、頸動脈狭窄症などの脳血管疾患に対し、365日24時間体制で休みなく対応しています。外科的治療のみならず、近年進歩の著しい血管内治療も積極的に取り入れています。

④自施設の課題

令和3年4月より名古屋市立大学の医学部附属病院となり、今後は附属病院群で連携を図りながら各病院の特長を生かした医師の配置や経営の効率化を行う必要があります。

当院においては自施設の特徴を活かし、近隣の高度急性期及び急性期病床を持つ病院と役割分担や連携を行いながら名古屋・尾張中部医療圏の幅広い医療ニーズへの対応が求められています。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 地域医療支援病院・三次救急医療機関として高度急性期及び急性期病床の機能を維持していきます。
- ・ 地域の中核医療機関として、地域医療連携の一層の推進を図ることで、地域包括ケアシステムの構築及び名古屋市全体の健康福祉施策の充実に貢献してまいります。
- ・ 第二種感染症指定医療機関として市内の中核的な役割を担っていきます。
- ・ 市民・地域医療のための包括的かつ全人的ながん治療を目指し、体制整備に取り組んでいきます。
- ・ 小児科の体制強化による小児救急の受け入れなど救命救急センターとしての役割をさらに果たしていきます。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 地域において果たす役割や今後担うべき役割を踏まえ、当院としては現在の高度急性期及び急性期病床の機能を維持する必要があると考えています。

③ その他見直すべき点

- ・ 令和3年10月に開始した低侵襲ロボット手術について、泌尿器・消化器・婦人科領域を中心に、今後さらに推進してまいります。(令和3年10月～令和4年9月実績：125件)

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和4年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	274	→	274
急性期	236		236
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	510		510

② 診療科の見直しについて

現時点では当院における診療科の見直し予定はありません。

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：85.0%
- ・ 手術件数：5,000件
- ・ 新入院患者数：11,500人
- ・ 救急車受入件数：8,700件
- ・ 地域医療機関からの紹介患者数：17,500人

経営に関する項目*

- ・ 医薬材料費比率：28.6%以内

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

当院の特色であります救命救急センターは「断らない救急」の実践に向けて不断の努力をし続け、救急搬送からの入院率は50%、Walk-inからの入院は20%を超える月もあり、特に小児科診療の充実（平日夜20時まで、火曜日夜は23時まで救急対応）にも取り組んでおります。

令和4年度は、先進がん治療センター、摂食嚥下センターを新たに開設いたしました。当院は、今後高齢者医療の充実に力を入れていく方向性を打ち出しておりますが、先進がん治療センターでは、高齢がん患者・他臓器合併症を有するがん患者に重きを置いたがん治療を目指します。当院のICU6床、CCU4床、HCU6床の重症患者診療体制が、高齢者がん診療をサポートします。また、高齢者に非常に多い誤嚥性肺炎の予防について、摂食嚥下センターは第一線の受け皿となり、社会のニーズに対応して参ります。